

(別紙様式 4 - 1)

熊本県立玉名工業高等学校 令和4年度(2022年度)学校評価表

1 学校教育目標
教育綱領のもと、生徒の豊かな感性や思いやりを育み、果敢に挑戦する態度を養い、企業や大学、地域との連携・協働により、地域の課題解決や発展に貢献し、地域社会に活力を与え、産業界の未来を担う人材を育成する。

2 本年度の重点目標
(1) 人間性の向上 ~ 基本的生活習慣の確立、規範意識の向上~ (2) 学力の向上 ~ 基礎基本の徹底、授業改善の推進~ (3) 工業教育の充実 ~ ものづくり教育、外部との連携による教育内容の充実~ (4) 安全教育の徹底 ~ 実験実習時の安全、交通事故の防止~ (5) 生徒募集 ~ 学校の魅力化、マスコミ等を活用したPR~ (6) 働き方改革 ~ 時間外勤務時間の削減、校務の効率化~

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	安心安全な学校	・日々変化する感染症に対応した運営により、クラスター0の達成 ・いじめ、ハラスメント、問題行動、事故の未然防止	・変化する生活様式の徹底を図り、感染拡大を極力減らす工夫を共有し続ける。 ・ハラスメントを許さない人権意識の高い風土づくり	B	・感染症予防においては生徒、職員における共通理解を図り、校内における感染症防止の成果が表れクラスター0であった。 ・いじめやハラスメント、問題行動の未然防止に努め対応を行い、人権意識を高める風土づくりを図っていったが、さらに推進の必要性を感じる。
		夢を実現する学校	・生徒の行きたい学校、教師の働きたい学校づくり (学校評価アンケート調査で95%超え)	・自己肯定感や自己有用感の育成と学校満足度の向上 ・協力体制ができる職場づくり	B	アンケート結果では目標値を達成できなかったが、夢の実現に向けて一生懸命取り組む風土づくりはでき上がりがつつある。分掌内における協力体制も進み、校務の平準化が進んでいる。
	働き方改革の視点に立った学校運営	職員の負担軽減のための校務改革	・超過勤務時間縮減のための校務の効率化と組織的な取組 ・業務の平準化への体制づくり	・衛生委員会やSKプロジェクトによる主導體制 ・一人一人の意識改革を推進	A	今年度校務分掌の改編により、分掌間の校務量の平準化を進めることができ、全体としての負担感の減少にはつながっている。定期考査後の会議や研修、また行事を減らすことにより、年休取得の促進につながった。
	入学定員の確保	入学希望者の増加	定員割れの状況改善(今年度28名の定員割れ)	・体験入学のPR活動 ・高校魅力化の向上と発信 ・中学校訪問による学校説明会の実施	A	中学校訪問により、本校の説明を実施した。18校へは校章スタンド、フラワーポット、玉工カレンダーを持参した。前期選抜の出願者が245人となり、昨年度よりも志願者数が増加した。

学力向上	教科指導の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価を見据えた指導技術の向上</li> <li>・専門性の向上</li> </ul>	授業に関する興味関心の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業評価の実施</li> <li>・更なる授業改善と評価法の研修</li> </ul>	A	授業評価アンケートをGoogle Formsへ刷新、教え方が工夫されていると感じている。夏季休業期間中に、観点別評価や評価法の研修を行った。
	基礎学力向上と積極的な学習への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学への取組向上</li> <li>・生徒の理解度の把握と学習意欲の喚起</li> <li>・学習習慣の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTや一人一台端末の活用</li> <li>・基礎学力の定着</li> <li>・学習への取組向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力テスト等による基礎学力の把握と向上</li> <li>・授業時間数の確保</li> <li>・定期考査へ向けた環境づくり</li> </ul>	A	一人一台のタブレット端末を持ち帰ることでGoogle Classroomなどを積極的に活用し、生徒は家庭学習の意識が高まり、主体的・対話的で深い学びを実践した。
キャリア教育(進路指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職に就くことを前提とした進路指導の充実</li> <li>・生徒一人ひとりの多様な進路実現</li> <li>・キャリア教育の充実(人から人材への高校3年間)</li> </ul>	・キャリア教育の充実	・本校独自の「キャリア・パスポート」を作成	学期の振り返りシートや各行事の振り返りシートを作成し、活用する。	A	全校生徒に対して、キャリア・パスポートとして、活用できるファイルを購入し、配付した。生徒は、必要な資料や情報を蓄積できる環境を整備した。
		・玉工手帳の積極的活用と活用能力の向上	・「玉工手帳を活用し予定を立ててから行動できるようになった」と答える生徒60%以上	・玉工進路通信を月1回ペースで発行(玉工手帳の活用法・進路情報の提供)	B	学校評価のアンケートの結果から、生徒の玉工手帳活用状況は、昨年度比8割UP、一昨年比23割UPの54%となった。手帳を活用して生徒の自己管理能力、計画力、改善力を育む指導に繋げていきたい。
		・生徒の自己管理能力、計画力、改善力の向上	・進学希望者及び就職希望者の最終合格 ・内定率100%達成	・個別進学指導の計画及び実施 ・各種検査の実施 ・教職員の研修会やセミナー等への参加 ・全職員による面接指導の実施 ・進路講話及び進路説明会の実施	B	令和5年1月23日現在、3年生209名中202名が進学先又は就職先を決定(96.7%)した。 本年度は、5月に県内企業(熊本県企業立地課)と県外企業(各工業科主任)より、就職についての説明を全学年に対して行った。今後も、進学・就職・公務員の3本柱で生徒への進路先を確保していきたい。

生徒指導	基本的生 活習慣の 確立	制服の正しい着 用と地域に信頼 される生徒の育 成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服装や身だ しなみの大切 さについての 理解（服装検 査の合格率を 各クラス90 %以上）</li> <li>・ 地域に信頼 される行動の 定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服装頭髪検 査に向けた事 前指導の徹底</li> <li>・ HR指導及 び集会等での 指導</li> </ul>	A	1月時点で全体平均は約94%であった。18クラス中15クラスが年間平均90%以上の合格率となった。昨年度は全体平均が84%、年間平均90%以上のクラスは18クラス中6クラスであったので、服装や身だしなみについての意識は向上していると推測される。
		校門付近でのマ ナー向上	校門付近にお いて通行の妨 げになっている 状況の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下校指導の 実施</li> <li>・ 担任指導や 全校集会での 周知徹底</li> <li>・ スマートフ ォンの使用場 所の検討</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間を通じての下校指導や道路工事の影響もあり、少しは改善された。しかし、帰宅時間が重なった時や集団で帰宅する際に正門付近に集まっている生徒もおり、その都度指導を行っている。</li> </ul>
	交通安全 教育の推 進	自転車運転マナ ー及び原付バイ ク運転マナーの 向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通学路にお ける交通指導</li> <li>・ 自転車二重 ロックの徹底</li> <li>・ 交通事故の 前年比30% 減</li> <li>・ 交通違反の 30%減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地での登 校指導の充実</li> <li>・ 交通委員に よる啓発活動 及び職員によ る指導</li> <li>・ 原付通学生 の定例会の定 着と効果</li> <li>・ 原付免許取 得者全員に対 しての定例会 の実施</li> <li>・ 担任指導や 全校集会等に よる周知徹底</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通学路での登校指導は生徒の通学状況に合わせ登校時と下校時に実施した。</li> <li>・ 自転車での登下校中の事故は昨年より1件減だった（12件）。特に道路へ出てくる車との接触事故が多く、また事故の発生時期も1学期の5～6月に集中していた。</li> <li>・ 原付の交通事故は昨年度と比べ3件増加した。特に転倒による事故が増えており、原付の操作技術の向上が必要である。</li> <li>・ 原付の交通違反は昨年度と比べ5件減少した。免許保有者に対して違反をした場合に自動車学校での講習会の受講や運転記録証明書の取得などで規範意識が高まってきている。</li> </ul>
人権教 育の推 進	人権教育 の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の充実と 推進体制の強化</li> <li>・ 指導方法の工夫と改善</li> <li>・ 学習環境の整備</li> <li>・ 充実と指導者の育成</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症に対する人権的配慮の深化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期に最低 1回程度の校 内職員研修を 実施</li> <li>・ 人権教育便 りの配布（学 期に1回）</li> <li>・ 校外の各種 研修会への参 加を推奨（2 回以上参加7 0%）</li> <li>・ 学年に応じ た、効果的な LHRの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育推 進委員会で、 校内職員研修 の内容を検討</li> <li>・ 人権啓発、 同和問題への 関心を持つよ う、最近の問 題を提示</li> <li>・ 校外研修に おける全職員 への参加の呼 び掛けとレポ ート研修にお けるレクチャ</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期1回の職員研修や人権LHRを行うことができた。</li> <li>・ 推進委員会を開き職員研修の内容について（レポート研修）協議することができた。</li> <li>・ 校外研修に関してはオンラインではあったものの、地域の研究集会に2回とも80%を超</li> </ul>

				一の実施 ・人権教育推進委員会や学年会で内容を協議 ・全職員によるレポート研修の実施		える職員が参加をすることができた。
	学力保障及び進路保障の支援	確かな学力を身に付け、進路を保障する取組の強化	全ての教科で人権・同和教育の視点で学習指導、生徒指導の展開 (就職内定率100%)	進路指導部や各学年と連携し、全職員が生徒一人一人を大切にする学習指導、生徒指導の体制を強化	B	学力保障のために、教員間の報告・連絡・相談を密にする取り組みがなされた。進路保障においては、幅広い生徒の希望に対応できるよう努めた。今後、学習支援アプリの導入を検討していく。
	命を大切にすることを育む指導	自己肯定感、自己有用感を高める指導の強化	全ての教科で人権・同和教育の視点で命を大切にする授業の展開	HR活動や全教科で取組及びLHRにおける授業の実施(2回)	B	各学年SOS教育を授業やHR活動で実施したが、職員研修等での個のスキルアップが必要と感じた。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の推進	いじめにつながらない、学校全体の風土づくり	・全ての教育活動での注意喚起・言葉かけ及び情報提供等の徹底 ・生徒の変化に気づき、変化を見逃さない職員間の協力体制の構築といじめを許さない体制及び環境づくり	・職員がいじめ防止研修を実施し、いじめに対する感性の高揚を図る ・INI(いじめなくそう委員会)による啓発活動	B	・いじめに関する研修を実施し、いじめに対する措置等の周知ができた。また、アンケート等によるいじめの実態把握を行い、その結果をもとにいじめ防止対策委員会で検討し、早期に組織的な対応ができた。相談支援部及びSCやSSWとの連携ができた。 ・人権を傷つける発言があり、言語環境を整える風土づくりを学校全体で取り組む必要がある。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域連携	「地域とともにある学校づくり」の取組	・保護者、地域住民、行政等からの学校への参画並びに支援体制を促進させ、信頼関係の深化 ・「社会に開かれた教育課程」の実現	・学校運営協議会の充実を図り、委員との協力体制の構築を図る。 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた保護者や地域住民との情報や課題の共有化	A	・with コロナを進めたことで、保護者の行事等における支援をいただき満足度も高まった。 ・学校運営協議会も2年目を迎え、委員様からのご意見やご協力をいただき、社会に開かれた教育課程の実現に向けて進んでいる。
		ボランティア活動の推進	・イベントへの参加を通して地域住民との連携 ・本校主催の	・ボランティア活動を通して学校と地域をつなげる。 ・地域清掃活動の実施	C	・地域イベントのボランティアに参加することができたが、一方福祉施設等のイベントが中止になり目的が達成

			イベントやボランティア活動を通して地域住民との連携	・本校主催のグランドゴルフ大会の実施		できなかった。 ・校内での清掃ボランティア活動などを今後充実させていく必要性を感じる。												
産業界や地域に貢献する人材の育成	ものづくり教育を通じた人づくり	地域や関連企業との連携	ものづくり教育の充実と職業人としての意識向上	工業の関連企業や大学等との連携による現場見学や実技指導等の実施	A	玉名市と連携した公民館講座「箱庭づくり」や東海大学教授による講演などを実施、築山小学校にてもものづくり教室や睦合小学校へのリヤカー修理など技術力還元に取り組むことができた。												
		専門分野への知識や技能の深化	・ジュニアマイスター顕彰制度において連続して学校表彰を受ける  ・ジュニアマイスター認定10%増	・ゴールド、シルバーだけでなく、ブロンズの認定の推奨 ・3年間の取得計画表の掲示 ・各種資格の周知 ・課外や模試の実施	B	・ジュニアマイスター顕彰状況 <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">G</td> <td style="text-align: center;">S</td> <td style="text-align: center;">B</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">63</td> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> <tr> <td>(R3)</td> <td style="text-align: center;">(21)</td> <td style="text-align: center;">(75)</td> <td style="text-align: center;">(32)</td> </tr> </table> R4/R3=183/128=143% 目標値の43%増しとなった。 ・保護者への資格試験の周知が不足していたので、来年度は工夫する必要がある。 ・資格計画表は各科で作成されクラスに掲示されている。 ・朝課外・夕課外共に各科で行えた。		G	S	B	R4	20	63	100	(R3)	(21)	(75)	(32)
			G	S	B													
R4	20	63	100															
(R3)	(21)	(75)	(32)															
魅力発信	・学校の日々の様子を定期的に更新 ・中学生が入学したいと思う学習内容やものづくりの発信 ・地域イベントへの参加を通しての本校の魅力発信	・ホームページやInstagramによる発信 ・中学生に本校の魅力ある学習内容を発信 ・地域イベント等に参加しメディア等を活用したPR活動	A	・学校ホームページは行事ごとに更新を続けている。Instagramも土木科、工業化学科等を中心に更新中である。 ・玉名市産業祭、玉名市進学フェア、玉工祭等において学校の魅力発信を実施した。 ・地域へのミニリヤカー、長椅子、防球ネット自動車牽引レーキ等を寄贈して、ものづくりの学校をPRした。														
部活動の振興	魅力ある部活動づくりとその活性化	・部活動の加入率の向上 ・各種大会において上位入賞及び上位レベルの大会への出場	・部活動指針に基づいた長・中・短期の目標を明確化 ・生徒の自主性を伸ばす計画的活動の実施	B	・部活動への加入率は高い推移となっている（体育系67.7%、文化系33.4%）。 ・部活動指針に基づいた指導計画の作成し明確化を行ったことで、生徒の活動意欲の向上や競技レベルの向上につながった。													
	部活動における安全管理	・毎日の健康観察の徹底 ・活動場所の安全管理と整	・部活動顧問会を定期開催し、情報共有及び安全管理	B	・部活動顧問会は、必要に応じて臨時的に開催し、情報共有等を行い安全管理等につなげることができた。													

			<p>理整頓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動中のけがの予防及び防止の徹底</li> </ul>	<p>に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の活動内容を明確化し、休養日等を定期的に設ける。</li> <li>・救急処置講習会を実施し生徒相互の安全意識等の向上に努める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部活動の指針に沿って活動内容、休養日等を定期的に設けることができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症が一時的に増加傾向であったため消防署での開催ができず、急遽学校で実施した。各部の代表が真剣に取り組むことができた。</li> </ul>
保健管理	安心安全な学校づくり	安心安全な学校づくりのための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検実施100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回の安全点検を実施する。加えて事務室へ連携を図り、整備・修繕等の依頼を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検の回収率は70%程度であった。</li> <li>・整備・修繕等は可能な限り実施することができた。</li> </ul>
	心身の健康を育む	健康に対する意識や自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Formsによる健康観察の徹底</li> <li>・保健だよりによる健康情報の提供</li> <li>・部活動生への救急処置講習会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関する生徒情報の共有を図る。</li> <li>・保健だよりコンクールでの入賞</li> <li>・体育会系部活動生対象の救急処置法講習会の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Formsによる健康観察をすることにより生徒情報の共有が図れた。</li> <li>・保健だよりコンクールの入賞はできなかったが、生徒たちの日々の活動はよくできていた。</li> <li>・体育会系部活動生対象の救急処置法講習会を実施することができた。</li> </ul>
		特別支援教育を含めた相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を持つ生徒、支援の必要な生徒の早期発見・早期対応</li> <li>・特別支援教育に関する職員の共通理解と実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修の実施</li> <li>・生徒状況把握のための各種調査の実施</li> <li>・個別の教育支援計画に基づく情報共有と支援の実施</li> <li>・SC・SSWや関係機関との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月に生徒理解研修を行い、支援対象生徒について、全職員で共通理解が図れた。</li> <li>・「保護者の気づきアンケート」や「心と体の振り返りシート」を生徒の状況把握に役立てることができた。</li> <li>・一年生の個別間教育支援計画作成にあたり4名について、保護者の参画を得て作成することができた。</li> <li>・SC・SSW支援により医療機関と連携できたケースがあった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情を高めるための取組及び他人への思いやりを持つ生徒の育成</li> <li>・命ある全てを大切にする心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にする教育の実施</li> <li>・ストレス対処教育の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年対象の講演会の実施</li> <li>・自らSOSを発信する方法と傾聴方法の授業を実施</li> <li>・相談室だよりを活用したストレス対処教育の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面での講演会を学年ごとに実施し、命の大切さについて考えることができた。</li> <li>・SOSを発信しやすい関係性の構築、ストレスマネジメント、傾聴スキルなどに関する授業を実施し、ストレスに対処する力の構築に努めた。</li> <li>・学期毎に相談室だよりを発行し、自己のストレス状況の確認、対</li> </ul>

						処方法等について紹介できた。
--	--	--	--	--	--	----------------

#### 4 学校関係者評価

- 学校関係者評価委員の皆さまから以下のとおり評価やご提言等をいただいた。
- ・入学希望者が増加しており大変頼もしく思う。これまで築き上げてきた学校の伝統を大切に、さらに地域や卒業生が望んでいる人材の育成に励んでもらいたい。また、玉名市主催の合同進学フェアの影響も大きかったと考えられ、継続をお願いしたい。
  - ・年々県内企業に残る生徒が増加しており、大変嬉しく思う。今後はT S M Cの進出で、さらに県内に卒業生が残るようお願いしたい。
  - ・玉工手帳の活用は素晴らしい本校教育の取組の一つで、「生きる力」の原動力の育成につながる教育実践の内容でもある。教職員や保護者の理解を深める取組みも合わせながら、さらに進めていってほしい。
  - ・ボランティア活動の充実、自己肯定感や自己有用感の向上につながる。コロナ禍によりこの三年間の取組が制限されたが、次年度玉名市との連携を深め、復活させていくことを願っている。
  - ・時代の流れが速く対応が早急に迫られる現代社会の中での校則の見直しは大変なことであるが、将来ある生徒たちのために良策を導き出していてもらいたい。
  - ・地元にある工業高校の存在を誇りに思っている。みなぎる若い力を未来の宝として育成され、魅力ある学校づくりを進めていてもらいたい。
  - ・部活動、資格取得、各種工業系の大会での入賞等目覚ましいものがあり、魅力のある学校づくりとなっている。そのことにより、スクールポリシーとして掲げている、3つのポリシーが生かされていると感じている。
  - ・アンケート結果における課題として、「ボランティア活動に参加し、地域との連携の一翼を担っている」「家庭学習の指導」があげられ、今後の対応をお願いしたい。

#### 5 総合評価

##### (1) 全体において

自己評価については、9個の大項目に対して27の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果はA評価9個(33%)、B評価17個(63%)、C評価1個(4%)、D評価0であった。昨年度と比較するとA評価の割合は変わらず、B評価の割合は4ポイント増加、Cの割合は4ポイント減少であった。具体的には、「入学定員の確保」、「基礎学力向上と積極的な学習への取組」、「キャリア教育の充実」、「制服の正しい着用と地域に信頼される生徒の育成」、「地域とともにある学校づくりの取組」、「地域や関連企業との連携」において改善している。

学校評価アンケートにおける質問項目の「玉名工業高校に入学して良かった」という生徒の割合は90%(昨年度から1ポイント減)、また「自分の子どもを玉名工業高校に入学させて良かった」という保護者の割合は95%(昨年度から1ポイント減)、「働きやすい学校づくりが進められている」という教職員の割合は93%(昨年度から1ポイント減)という結果であった。

##### (2) 本年度の重点目標

###### ア 人間性の向上

###### ① 基本的生活習慣の確立

ほとんどの生徒の基本的生活習慣が確立され、学習や部活動に専念できる環境が整えられている。

###### ② 規範意識の向上

生徒の意識では多くの生徒が校則を遵守し、日々の生活を過ごしている。また生徒指導上の問題を通して、規範意識の醸成を進めている生徒もいる。

###### イ 学力の向上

###### ① 基礎基本の徹底

家庭学習に取り組む生徒は昨年、一昨年よりも増加傾向にあり、学習に対する意欲が高まっている。

###### ② 授業改善の推進

タブレットの活用や対話的な学習を取り入れた授業形態により、生徒の授業や家庭学習に対する意欲が昨年度よりも大きく向上した。

###### ウ 工業教育の充実

###### ① ものづくり教育

昨年度の施設、設備面の充実により、生徒たちのものづくりに対する意識は確実に高まっている。

###### ② 外部との連携による教育内容の充実

熊本スーパーハイスクール(KSH)の指定により、外部との連携が教育内容の充実に影響していると考えられる。特に、土木科は玉名市との連携により大きな効果があり目を見張るものがある。

###### エ 安全教育の徹底

###### ① 実験実習時の安全

各工業科における危険予知トレーニングやマニュアル作成により、事故防止の意識向上につながっており、実習における重傷事故は0であった。

② 交通事故の防止

ほぼ昨年度と変わらない件数であったが、原付バイクによる事故で長期入院を余儀なくされた生徒がいた。バイク通学生には月例会を実施し注意喚起を行っているが、それ以外の取得者の指導を図る必要を感じる。

オ 生徒募集

① 学校の魅力化

創立60周年を迎えものづくり教育、資格取得、部活動、進路決定の伝統に加え、KSHの指定による産学官連携など新たな取組も進み、生徒募集につながっている。

② マスコミ等を活用したPR

各種行事や地域連携等におけるニュースを積極的にマスコミに発信し、県内や地元でPRを行うことができている。

カ 働き方改革

① 時間外勤務時間の削減

今年度特に力を入れた定期考査期間中の会議や運営委員会、職員会議の削減により、休みを取りやすい環境をつくり出し時間外勤務時間の短縮につなげることができた。また、年度当初に顧問会議での部活動の指針を共有し、遵守することで無理のない活動が実施でき時短につながった。

② 校務の効率化

昨年度末の校務分掌の見直しにより、今年度再編を行い新たな各部署でスタートし校務の平準化を目指した結果、ある程度の成果を得ることができた。変化の激しい社会の中で新たな課題も山積しており、次年度へのつなぎを検討している。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

働き方改革においては、昨年度まで2年間の県教委の指定を受け時間外勤務時間の削減はある程度できていた。今年度はさらに、定期考査期間中に会議を入れないこと等を徹底し、時間削減の効果が上がった。特に採点を行う職員からは好評で、昨年度の反省を生かした取組が良かったと考える。

(2) 授業改善と学力向上

タブレットが導入され1年が経過し、職員が積極的に活用し生徒の活用技術も向上している。また、自宅に持ち帰り学習の復習等に活用し、登校できない状況でのオンライン授業等にも活用されており、生徒の学習の理解力や意欲の向上にもつながっている。

(3) キャリア教育の充実と進路決定

玉工手帳の活用状況は毎年着実に向上しており、この活用を通して生徒たちは先見の明の力を付けているといえる。また、全校生徒に対してキャリア・パスポート作成のためのファイルを準備し、今後振り返りができるよう環境を整備した。進路面においては、進学希望者が増え、また多様な希望もあり対応を図っていく必要がある。

(4) 生徒指導の充実

昨年度に引き続き校則の見直し検討会を生徒会、保護者代表と数回実施した。時代の流れに沿い生徒目線に立ったところで検討しながら、周囲に違和感や不快感を与えないという根幹の部分はそれぞれの立場からの意見が上がった。校則の見直しについては、今後もさらに検討を重ね三者が納得したところで決定し、規範意識の向上につながる生徒の自主的な校則となることを望んでいる。

(5) 生徒募集と魅力化の推進

生徒募集においては、今年度専属の担当を配置した結果、募集における動きを活発化させることができ、志願者の大幅増加につなげ久しぶりに定員を上回ることとなった。また、玉名市主催の行事や連携により話題性のある取組が実施できたことは大きかった。さらにもものづくりを通じた取組を増やし、本校の魅力を発信させる機会を増やしていきたい。

(6) 地域連携

今年度もコロナ禍により、地域との連携が制限された状況下ではあったが、そのなかでも小学校とのものづくりによる交流や地域への寄贈等においては実施できた。学校運営協議会は2年目を迎え、ご意見やご提言をいただき順調に進んでいる。今後は玉名市や地域と連携したボランティア活動を積極的に行い、さらに地域に支えられる学校づくりが求められる。